

校長室だより 春日 (しゅんじつ)

校長 清武 直人

感謝の会

「お母さん、覚えていますか。私が保育園に通っていた時のこと……。」

「覚えていますか。小学校入学式の日のこと……。」

「覚えていますか。ぼくがサッカーだけがをした時のこと……。」

「お母さん、覚えていますか。私がお母さんに叱られた日のこと……。」

昨日は、6年生の感謝の会。子どもたち一人一人がお父さんお母さんを前にして、これまでの感謝の気持ちを書いた色紙を、一人一人読み上げていきました。

私の涙が止まらなかったあの日のこと
ふてくされてしまったあの日のこと
思い返すと恥ずかしくて

申し訳なくて

でも、でも……

心の底からうれしくて



「大丈夫よ！」

「上手だったね！」

「お友達はいるの？」

「寂しくないか？」

「いつでもお父さんは味方だからね！」

お母さんの、お父さんのその一言が私をどれほど勇気づけてくれたことでしょう。

「お母さんの手帳に、ぼくの卒業式までのスケジュールがぎっしりと書かれているのを見た時、ぼくの心は震えました。」

「どんな時でも、最後まで私の話を聞いてくれるお父さんに感謝の気持ちでいっぱいです。」

「あの時、私のために涙を流してくれたお母さん、ありがとう。」

子どもたちの感謝の言葉が続きます。子どもたちの声が震えます。お母さんの目から涙がこぼれます。

ありがとう

お父さん お母さん

大人になったら

ぼくが 私が

お父さんとお母さんを支えるからね！



PTA運営委員会

「まさかの委員長でしたが、学校をすごく身近に感じた1年でした。」

「学校に来る機会が増え、日頃の我が子の楽しそうな姿を目にすることができました。」

「私が学校によく来ているので、子どもが喜んでくれました。」

「先生たちや多くのお母さんたちと接することのできる、よい機会を作っていたのだと思っています。」

本年度最後のPTA運営委員会。活動の振り返りの後に、一言ずつ感想を聞かせていただきました。

“まさかの委員長”で、みなさんのご苦勞もさぞかし多かったことと思います。しかし、どれも前向きなすがすがしい言葉ばかりでした。

改めて、皆様に感謝申し上げます。

平成28年度のPTA活動が一層充実しますことを心より願っています。

ゆずりは



“ゆずりは”は、新しい葉が生長してから古い葉が落ちるという特性を持った植物です。

確実に次の代に生命を譲り渡していくという自然界の知恵でしょう。

今、学校を取り巻く全てのことが、次年度に向けて動き出しています。確実な次年度を迎えるために、一人一人が“ゆずりは”の心を持って動いていることを感じます。

「次の新葉を育てながら散ってゆく」

3月はそんな季節。

(ToT)

